

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 列強の世界分割と列強体制の二分化

この単元は、「2 内容」の「D諸地域の結合・変容」の「(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 列強による世界分割の経過、結果を理解する。
- (2) 帝国主義時代に世界各地で列強による植民地化が進んだ背景について、資料を分析し、考察する。
- (3) 日英同盟が成立した背景について、単元で学習したことを基に主体的に考えようとしている。

3 単元の指導計画（全体4時間）

(1) 指導計画

- ・アフリカの植民地化 2時間（本時1/2）
- ・太平洋地域の分割、ラテンアメリカ諸国の従属と発展 1時間
- ・列強体制の二分化 1時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・列強による世界分割の経過、結果を理解している。	・帝国主義時代に世界各地で列強による植民地化が進んだ背景について、資料を分析し考察している。	・日英同盟が成立した背景について、単元の学習したことを基に主体的に考えようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画（○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」）

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2)	<p>【学習課題】<単元を貫く問い>「なぜ世界の工場イギリスは日本と同盟を結んだか」</p> <p>【学習課題】<問い>アフリカ分割が進展した背景は何か。</p>						
	・アフリカ分割	【ねらい】アフリカ分割が進展した背景について、史料を読み、分析する。		○	●	4(4)を参照。	・ワークシートの記述を基に評価する。
<p>【学習課題】<問い>列強による植民地化に対して、現地の住民はどのような反応を示したか。</p>							
・アフリカ分割	【ねらい】植民地化を免れた国、植民地化された国の状況についてまとめる。	●		●	(B)アフリカ分割の経過、結末を理解している。	・ワークシートの記述を基に評価する。	

第2次 (1)	【学習課題】<問い>列強による太平洋地域の植民地化は、どのように進められたか。					
	・太平洋地域の分割	【ねらい】太平洋地域の分割の様子を理解する。	●	●	(B) 太平洋地域分割の経過、結末を理解している。	・ワークシートの記述を基に評価する。
第3次 (1)	【学習課題】<問い>日英同盟は日本の歴史にどのような影響を与えたか。					
	・列強体制の二分化	【ねらい】イギリスとドイツが対立している構図を理解する。	●	○	4(4)を参照。	・ワークシートの記述を基に評価する。

(4) 評価問題及び評価規準

ア ワークシート (Task 2) の評価規準【思考・判断・表現】

・アフリカ分割が進んだ背景について史料を参考にして分析する。

判断基準

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例

・複数の史料からアフリカ分割が進んだ背景をまとめ、ベルリン会議の内容についても理解できている。

「十分満足できる」状況 (A) と判断される例

・複数の史料からアフリカ分割が進んだ背景を、帝国主義の特徴と関連付けながら具体的に表現できている。

「努力を要する」状況 (C) と判断される例とその生徒への支援

・アフリカ分割が進んだ背景について史料を踏まえて考察していない。→参照すべき箇所を指示する。

イ ワークシート (Task 4) の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

・世界の工場イギリスが、日本と同盟を結んだ理由を考える。

判断基準

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例

・日英同盟が結ばれた理由を考えることができている。

「十分満足できる」状況 (A) と判断される例

・授業の内容を踏まえ、日英同盟が結ばれた理由を複数考えることができている

「努力を要する」状況 (C) と判断される例とその生徒への支援

・日英同盟が結ばれた理由を考えない。→個別に声掛けを行い、周りの生徒との相談を促す。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

アフリカ分割が進んだ背景について史料を基に考察し、表現するとともに、イギリスが日英同盟を結んだ理由について予想することで、主体的に学習に取り組む態度を身に付ける。

(2) 本時の展開

(○…「評価に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・日英同盟	・なぜ 1902 年に日英同盟が結ばれたのか、既習事項を基に予想する。	・単元を貫く問いを示す。
展開	・列強によるアフリカ分割 ・アフリカ縦断政策 ・アフリカ横断政策 ・ファショダ事件	・アフリカ分割の図を参考に、独立を維持した国を調べる。 ・アフリカ分割の背景について史料【1】～【4】を読み、考察する。 ・ローズの風刺画を読み解き、イギリスのアフリカ分割における方針を考える。 ・フランスがアフリカに影響力をもつようになった経緯を考える。 ・ファショダ事件の概要を調べる。	・教科書の図版を参考させる。 ○ワークシート【思】 複数の史料から背景を読み取るよう伝える。 ・シャルル 10 世によるアルジェリア出兵が想起できるよう支援する。 ・図版を参考にイギリスとフランスが衝突したことを読み取らせる。
まとめ	・日英同盟の背景	・本時の内容から、日英同盟を結ぶに至った理由がないか検討する。	●ワークシート【態】

(3) 本時の評価規準

4 (4)ア参照。

5 成果と課題

今回、単元の学習を始める前に「なぜ、世界の工場イギリスは日本と同盟を結んだか」という問いに対する答えを予想させた。この予想を基に、単元の学習を進める中で、その他の理由や新たな発見を、ワークシートに記録させ、単元の学習の終わりに、日英同盟が結ばれた理由を生徒にまとめさせた。このように展開する中で、生徒が粘り強く学習に取り組み、学習したことを生かして結論を導き出そうとする態度を評価できないかと考えた。

生徒の事前の予想に、以下のような意見があった。

- ・日本が日清戦争に勝ったことで日本に将来性を感じ、イギリスが困ったときに協力してもらおうとした。
- ・ロシアが実施していた南下政策に対抗する狙いがあるのでは？
- ・イギリスが日本と同盟を結んだ理由には地理的な背景があるのでは？
- ・日本は中国に近いから、イギリスが今後中国を狙う上で日本が良いパートナーになったのでは？

このように直前に学習した日清戦争での日本の勝利を予想の根拠に挙げる生徒が多くいたが、中にはロシアとイギリスが東方問題の学習の際に対立していたことを想起し、ロシアに対抗するためではないかと予想する生徒もいた。

単元の学習の始めに問いを設定し、生徒に答えを予想させたことで、以後の学習において日英同盟の理由を探るという明確な目標をもって取り組むことができたと考えている。単元の学習を進めていく中で、1899年に発生した南アフリカ戦争を理由の一部として考える生徒がいた。また、中国分割でイギリスが長江流域を勢力圏としたのに、なぜ山東半島の威海衛を租借したのかと発問をすると、ロシアの南下政策に気付き、日英同盟と関連付けて考察しようとする生徒もいた。

課題は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準である。今回、日英同盟が結ばれた理由を複数考えることができた生徒をA評価としたので、結果としてほとんどの生徒がA評価となった。本単元であれば、もう少し難易度を上げ、例えば、「1907年の英露協商をテーマに、1902年の日英同盟成立時には対立していたイギリスとロシアが、なぜ協商関係を結ぶに至ったのか」という問いを考えさせるとよかったと考えている。今後も研究を継続し、生徒の思考が活性化するような問いを探っていきたい。